

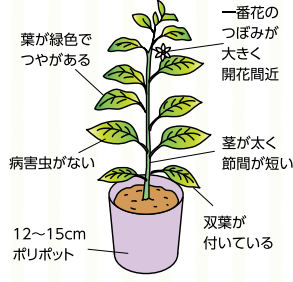
ピーマン(ナス科トウガラシ属)

トウガラシのうち、辛味のない肉厚の楕円形のもののがピーマンです。また、パプリカと呼ばれるものも、赤、黄、橙などの着色した完熟果を収穫する品種です。高温性で暑さに強く、病害虫が少ないので栽培しやすい野菜です。

【品種】ピーマンの育苗期間は70〜80日と長いため、苗の購入が便利です。品種を特定することが難しいですが「京まつり」(タキイ種苗)、「翠玉二号」(サカタのタネ)などが良いでしょう。

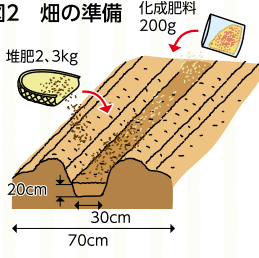
【良い苗の選び方】良い苗は、①本葉8〜10枚で、双葉が付いている
②茎が太く節間が短くしっかりとしている
③葉が緑色でつやがある
④一番花のつぼみが付いている
⑤病害虫のないもの、です(図1)。

図1 良い苗の選び方



【畑の準備】植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて土とよく混ぜておきます。1条植えの場合は1週間前に幅70cm程度の栽培床を作り、中央に幅30cm、深さ20cmの溝を掘り溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%程度)200gと堆肥2、3kgを施しておきます(図2)。

図2 畑の準備



【植え付け】晩霜の恐れがなくなったら、株間50cm程度で植え付けます。あらかじめ黒のポリフィルムでマルチをし、地温を高めておきます(図3)。

【整枝・誘引】植え付けと同時に仮支柱を斜めに挿し、株を支えます。一番花が着果すると、脇芽が伸びてくるので、一番花のすぐ下から出る勢いの良い2本の側枝を残し、他は取り除き3本仕立てにします。そして、一番花より下の脇芽は早めに摘み取ります(図4)。なお、一番花は着果負担があるため、開花中に摘花します。その後、主枝または側枝に沿って1m以上の支柱2、3本を交差させて誘引・固定します。

図3 植え付け

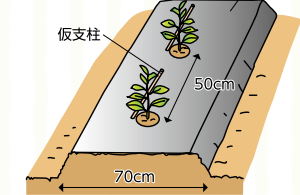
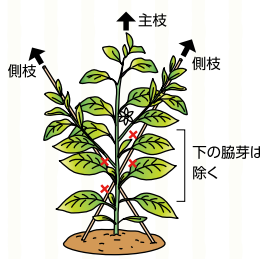


図4 整枝・誘引



【追肥・灌水】収穫が始まる頃から、マルチフィルムの裾をめくり、1平方m当たり(約4株分)化成肥料50g程度を株元にまき、土寄せします。その後、半月置きに畝の裾に同量を収穫中休みなく与えます。根張りが浅く、乾燥に弱いので夏場は毎日灌水しましょう。

【剪定】盛夏になると、枝が込み合い、葉が茂って果実への日当たりが悪くなつてきます。そこで、この頃に重なった枝を剪定します。

【病害虫防除】アブラムシにはマラソン乳剤、アディオン乳剤などの登録農薬で防除します。

【収穫】開花後15〜20日、30g程度のつやのある若い果実を収穫します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培計画												
冷涼地						🌱	🌱	🌱	🌱	🌱		
中間地					🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱		
暖地				🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱	🌱		

🌱 植え付け 🌱 生育 🌱 収穫



5L 997円(税込)



1.2L 570円(税込)

連作障害軽減剤

プランター栽培の場合は、毎回新しい培養土に交換すると安心です。畑で育てる場合は、連作障害を防ぐために連作障害軽減剤の使用をおすすめします。

ピーマンはナスやトマト、キュウリと並ぶ代表的な夏野菜で、家庭菜園でもプランターでよく栽培されています。ナス科の植物であるため、同じ場所が続けて育てると連作障害が起こる可能性があります。

JAグリーン津店が
ピーマンの
ポイント
教えます!

JAグリーン津店
店長 松井 茂樹